

多様な大学入試をめざして

平成14年度大学入試センター試験



入試に個性と特色を

《各大学がそれぞれに特色ある入試を実現できるよう、大学入試センターはその期待にこたえます。》

大学入試に求められているもの

大学入学者の選抜は、①大学教育を受けるにふさわしい能力・適性などの多面的な判定、②公正かつ妥当な方法、③入試のために高等学校の教育を乱すことがないような配慮、が基本的に重要だとされています。また、高等学校段階にある受験者の幅広い人間形成にも十分留意して、それぞれの個性や能力、適性を大切にしたい画一的でない多様な大学入試が、今まさに求められています。

大学入試センター試験の活用

これまでも入試制度そのものや各大学の入試方法について、さまざまな改善・改革が行われてきました。平成2年度からスタートした「大学入試センター試験」は、これらの実績を基に創設された入試制度です。この試験は、受験者の高等学校段階での学習の達成の程度を判定することを目的としており、その利用に当たっては各大学の創意工夫の基に、個別試験との組合せにより、多様な選抜方法の推進役ともなっています。

国公立大学の枠を超えて

大学審議会答申でも「入学者選抜において求める学生を見いだすためには、まず大学はそれぞれが特色ある教育理念等を確立することが必要であり、これに応じた入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明確化し、対外的に明示することが求められる。その上で、実際の選抜方法や出題内容等に反映させ、それぞれの大学にふさわしい入試を行うことが必要である。」と述べられています。大学入試センター試験はこのような期待にこたえます。この試験の趣旨や内容、実施結果などを、より多くの関係者の方に理解していただき、利用大学の輪が大きく広がっていくことが望まれます。大学入試の改善は、国公立すべての大学において着実に進められていくことが、何よりも大切と考えます。

各大学の特色ある入試をお手伝い

大学入試センター試験は、 利用大学ごとの自由な活用が基本

大学入学者の選抜の具体的なあり方は、各大学それぞれの自主的な検討に待つべきものです。大学入試センター試験は、このことを基本において考えられた試験で、各大学が独自の判断と創意工夫により、自由にこの試験を活用して、特色ある入学者選抜を実現しようとするものです。この試験の成績は、受験者ひとりひとりの能力や適性などが多面的に判定できるよう利用されるものです。

教科・科目の利用の仕方は 各大学の考え次第

大学入試センター試験は、各大学の判断により出題する6教科32科目から、利用教科・科目を自由に指定できます。また、大学入試センター試験と調査書や面接、小論文、実技検査などを適切に組み合わせることで、各大学のカラーを鮮明に打ち出し、いわゆる輪切りによる進路指導や大学の序列化に歯止めをかけることも期待されています。

基礎学力の判定

大学入試センター試験

6教科・32科目
創意工夫による自由な利活用

個性・能力・適性などの判定

各大学個別の試験

■調査書 ■面接 ■小論文
■スポーツ・文化などの諸活動状況
■学力検査

多様な組み合わせ

各大学における特色ある入学者の選抜

利用方法いろいろ、メリット多彩

《大学入試センター試験は、利用大学独自の創意と工夫により、さまざまに利活用されています。
その成果については、いろいろな反響が寄せられています。》

各大学での利用方法の一例

- 基礎的な学力を幅広く評価するため、出題教科・科目を総合的に利用。
- 一般選抜の定員の一部について、大学入試センター試験の特定の教科・科目を利用。
- 利用する教科・科目に幅を持たせ、受験者が得意なものを選択させて利用。
- 調査書と大学入試センター試験で第1次の選抜を行い、その合格者について面接試験を実施。
- 工学部において、大学入試センター試験の数学・外国語を利用。大学が行う試験は理科のみを実施。
- 入学定員の一部について、大学入試センター試験と大学が行う試験のうち、高得点の方を合否の判定に使用。
- 推薦入学について、大学入試センター試験の国語・外国語のみを利用し、大学が行う試験として面接を実施。
- 大学入試センター試験で必要とする成績水準を明示した上で、大学入試センター試験の成績がその水準に達している者は大学が行う試験に進ませ、大学入試センター試験の成績は合算せずに大学が行う試験の成績のみで合否を判定。

利用によって得られた成果

- 大学入試センター試験を利用した選抜については、全科目に平均的な学力を有するオールラウンド型の学生が受験するなど、従来とは異なった層の学生を開拓することができた。
- 大学入試センター試験の利用により、今まで実施が難しかった小論文や面接を導入する余裕ができ、偏差値・輪切り型からの方向転換を図ることができた。
- 受験者が全国的に広がり、受験者数も従来より増加した。
- 大学のPRに役立ち、イメージアップが図れた。
- 大学独自の試験のみで選抜を行うよりも、広範囲の教科・科目を利用した広い視野から受験者の適性の評価が行えるようになった。
- 同一大学・学部を受験チャンスが1回増えたことが受験者に好評であった。

大学入試センター試験の果たす役割など

大学入試センター試験は、昭和54年度から平成元年度まで実施された共通第1次学力試験に代えて、平成2年度から実施されているものです。

●難問奇問を排除した、良質な問題の確保

昭和53年度以前は、高等学校教育の程度や範囲を超えた難問奇問の出題が少なくありませんでしたが、共通第1次学力試験や大学入試センター試験の導入により、難問奇問を排除した良質な問題が確保されるようになり、現在、高等学校等の関係者からも高い評価を受けています。

●各大学が実施する試験との適切な組み合わせによる大学入試の個性化・多様化

大学入試センター試験を利用することで、大学が独自に行う試験として、小論文、面接等を実施する大学や推薦入学、帰国子女・社会人を対象とした特別選抜を実施する大学が増えつつあります。このように大学入試の個性化・多様化に大学入試センター試験は貢献しています。

●国公立大学を通じた入試改革

私立大学も利用できます。私立大学の参加数は年々増えており(平成14年度入試では311大学)、利用した私立大学からも好評を得ています。

●アラカルト方式による大学の序列化の回避

大学入試センター試験では、利用教科・科目を各大学が自由に指定できるアラカルト方式により、いわゆる輪切り、序列化を助長しないようにしており、大学入試センター試験の多様な利活用が進んできています。

協議・協力し、スムーズに実施

国公立の各大学が共同して試験の実施に当たります

大学入試センター試験は、この試験を利用する国公立大学が大学入試センターと協力しながら、大学入学者選抜の一部として、共同で実施するものです。また、この試験に関し、国公立大学間でその改善や充実及び意見の集約・調整などを行う協議組織として「大学入試センター試験協議会」が置かれており、試験実施に関する重要事項については、この協議会で慎重に協議を重ねた上で決定されています。

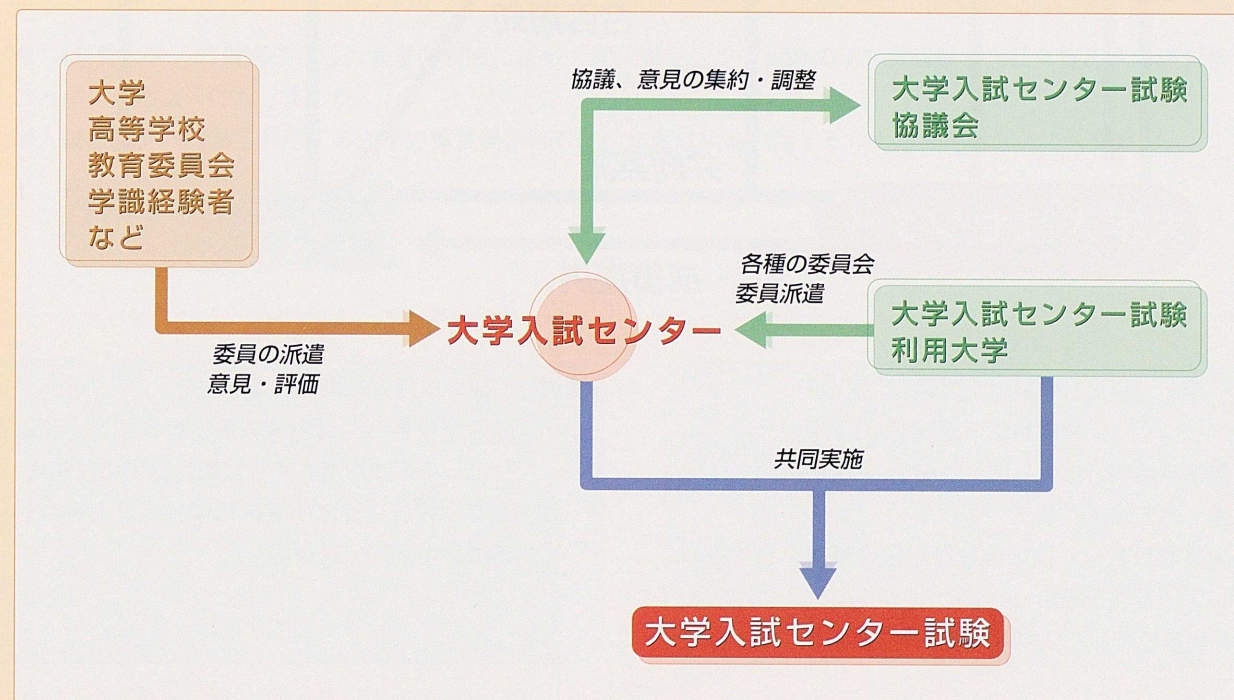
大学入試センターが試験問題の作成・答案の採点などを担当します

大学入試センターは、主として問題の作成や印刷、答案の採点、集計など、試験の実施に当たり一括して処理することが適当な業務を担当しています。

試験問題は、国公立大学の教員などによって作成され、その内容については、学識経験者、高等学校関係者からの意見・評価を受けています。

なお、大学入試センターの運営に関しては、各種委員会を通して各大学・高等学校関係者などの意見が十分に反映されるようになっています。

大学入試センター試験の運営



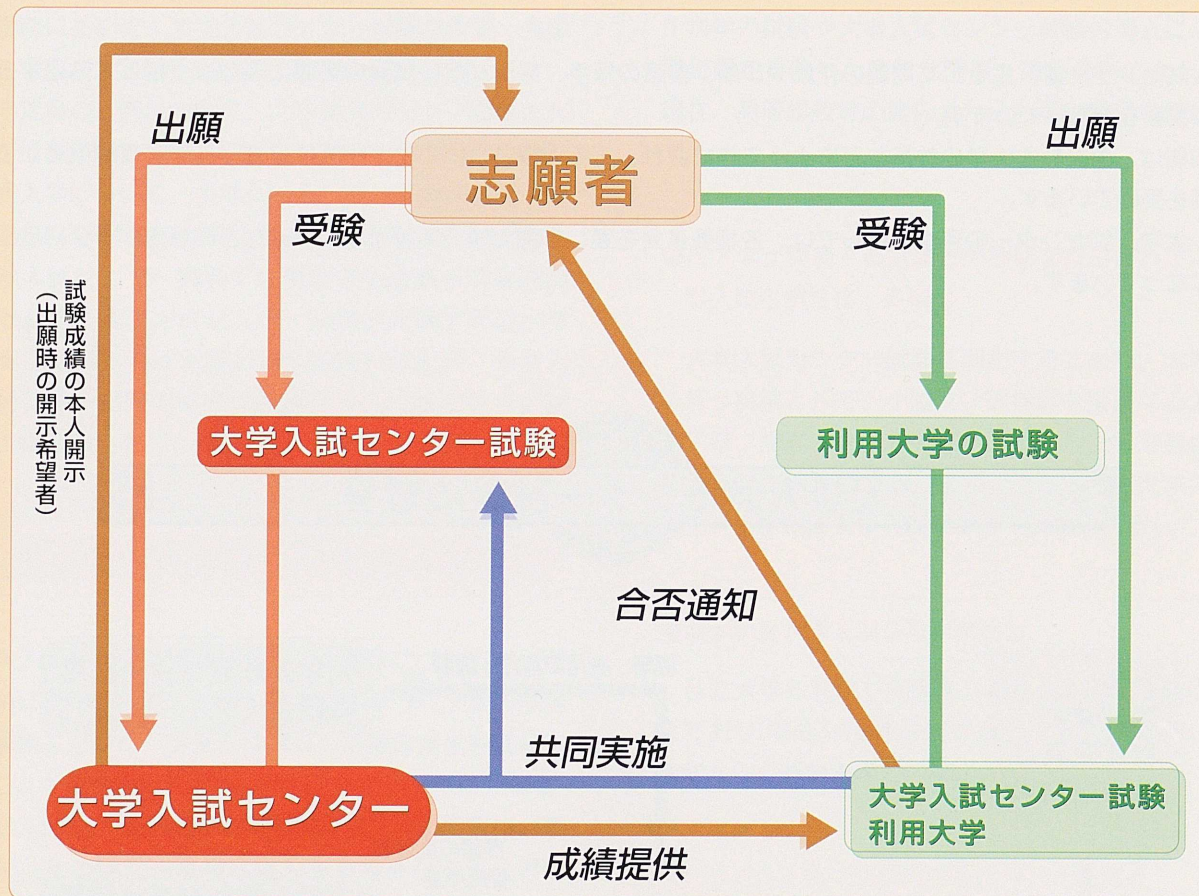
● 大学入試センター試験を利用した入試の仕組み ●

利用大学の役割

- 大学入試センター試験の利用教科・科目及び各大学の学力検査などの予告
- 試験場の設定、試験監督者などの選出
- 志願者への受験案内の配付
- 試験の実施
- 答案の整理、大学入試センターへの返送

大学入試センターの役割

- 試験問題の作成、印刷、輸送
- 受験案内、実施マニュアルなどの作成
- 出願の受付、試験場の指定、受験票の交付
- 答案の採点、集計
- 試験成績などの各大学への提供
- 試験成績の本人開示



■ 検 定 料／3教科以上受験16,000円

2教科以下受験10,000円

■ 成績開示手数料／出 願 時 800円

■ 出 願 方 法／

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校卒業見込者は在学している学校経由
- (2) 高等学校若しくは中等教育学校卒業業者等は直接郵送

■ 試 験 場／原則として

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校卒業見込者は在学している学校が所在する試験地区内の試験場
- (2) 高等学校若しくは中等教育学校卒業業者等は居住する試験地区内の試験場

● 平成14年度大学入試センター試験の主な変更内容 ●

大学入試センター試験成績の本人開示

大学入試センター試験成績の開示は、出願時の志願者本人からの希望に基づいて行います。

■ 成績開示の内容

「教科名」、「科目名」、「試験区分（本・追再試験の別）」、「得点（科目ごと）」（国語は出題分野別）

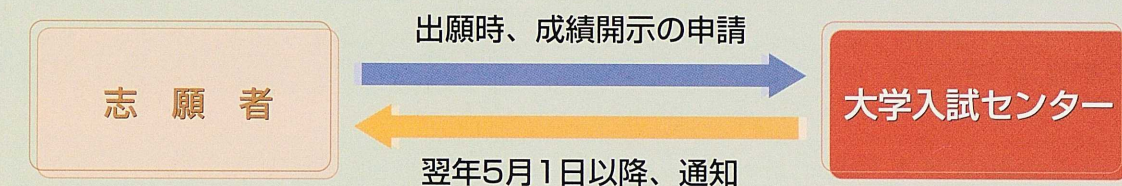
■ 成績開示の時期

平成14年5月1日（水）以降、書留郵便で通知します。

■ 申請方法等

成績開示を希望する志願者は、出願時に志願票へ必要事項を記入してください。

成績開示手数料（800円）は、検定料と併せて払い込んでください。



外国語の出題科目に「韓国語」を追加

各大学の判断により、前年度の大学入試センター試験の成績を利用する選抜

平成14年度大学入学者選抜から、大学の判断により大学入試センター試験の前年度成績を当該年度の入学者選抜に利用できるようになりました。

大学入試センター試験を利用する大学の募集要項等で、前年度成績を利用するかどうかを確かめてください。

平成14年度の出題教科・科目等

- 国公立、すべての大学が利用できる学力試験です。
- 高等学校教育にそって、良質な試験問題を用意します。
- 出題科目は、各大学が利用しやすいよう工夫されています。
- 受験者は大学があらかじめ指定した教科・科目を受験することとなります。

期日	教科・科目	時間・配点	出題方法等	科目選択の方法等
平成14年1月19日(土)	外国語 『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	10:00 ～11:20 (200点)	『英語』は、『英語Ⅰ』に加えて「オーラル・コミュニケーションA」、「オーラル・コミュニケーションB」及び「オーラル・コミュニケーションC」に共通する事項を出題範囲とする。	左の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。 ただし、科目選択に当たり、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」又は「韓国語」の問題冊子の配付を希望する場合は、大学入試センター試験の出願時に申し出ること。
	地理歴史 『世界史A』 『世界史B』 『日本史A』 『日本史B』 『地理A』 『地理B』	12:50 ～13:50 (100点)		左の6科目のうちから1科目を選択し、解答する。
	数学① 『数学Ⅰ』 『数学Ⅰ・数学A』	14:40 ～15:40 (100点)	『数学Ⅰ・数学A』は、『数学Ⅰ』と『数学A』を総合した出題範囲とする。 ただし、次に記す『数学A』の4項目の内容のうち、〔数と式〕を含む2項目を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。 〔数と式、平面幾何、数列、計算とコンピュータ〕	左の2科目のうちから1科目を選択し、解答する。
	数学② 『数学Ⅱ』 『数学Ⅱ・数学B』 『工業数理』 『簿記』 『情報関係基礎』	16:30 ～17:30 (100点)	『数学Ⅱ・数学B』は、『数学Ⅱ』と『数学B』を総合した出題範囲とする。 ただし、次に記す『数学B』の4項目の内容のうち、2項目を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。 〔ベクトル、複素数と複素数平面、確率分布、算法とコンピュータ〕 『情報関係基礎』は、職業教育を主とする家庭、農業、工業、商業、水産、看護の各科及び総合学科において開設されている情報に関する科目に共通する内容を出題範囲とする。	左の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。 ただし、科目選択に当たり、『工業数理』、『簿記』又は『情報関係基礎』の問題冊子の配付を希望する場合は、大学入試センター試験の出願時に申し出ること。
平成14年1月20日(日)	国語※ 『国語Ⅰ』 『国語Ⅰ・国語Ⅱ』	10:00 ～11:20 (200点)	『国語Ⅰ・国語Ⅱ』は、『国語Ⅰ』と『国語Ⅱ』を総合した出題範囲とする。 『国語Ⅰ』と『国語Ⅰ・国語Ⅱ』は、いずれも近代以降の文章、古典（古文、漢文）を出題する。	左の2科目のうちから1科目を選択し、解答する。
	理科① 『総合理科』 『物理ⅠA』 『物理ⅠB』 『生物ⅠA』 『生物ⅠB』	12:50 ～13:50 (100点)		左の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。
	理科② 『化学ⅠA』 『化学ⅠB』 『地学ⅠA』 『地学ⅠB』	14:40 ～15:40 (100点)		左の4科目のうちから1科目を選択し、解答する。
	公民 『現代社会』 『倫理』 『政治・経済』	16:30 ～17:30 (100点)		左の3科目のうちから1科目を選択し、解答する。

※「国語」は「近代以降の文章（2問 100点）、古典（古文（1問50点）、漢文（1問50点）」で構成されており、大学によっては分野別に利用を指定することができるようになっています。

平成14年度大学入学者選抜実施日程

平成13年 5月

大学入試センター試験の実施要項を発表

7月31日(火) まで

各国公立大学が個別学力検査等の選抜要項を発表

9月 3日(月) から

大学入試センター試験の受験案内を配付

10月 9日(火)～19日(金)

大学入試センター試験の出願受付
(大学入試センター試験の成績開示希望受付)

10月下旬から11月中旬まで

大学入試センター試験の志願者に確認はがきを送付

12月15日(土) まで

各国公立大学が個別学力検査等の募集要項を発表

12月上旬から12月中旬まで

大学入試センター試験の志願者に受験票等を送付

平成14年 1月19日(土)・20日(日)

大学入試センター試験の本試験を実施

1月20日(日)・21日(月)

大学入試センター試験試験問題の正解等を発表

1月23日(水)〔予定〕

大学入試センター試験の平均点等の中間発表

1月25日(金)〔予定〕

大学入試センター試験の得点調整実施の有無の発表

1月26日(土)・27日(日)

大学入試センター試験の追試験を実施

1月28日(月)～2月6日(水)

各 国 公 立 大 学 の 出 願 受 付

2月 4日(月) から

大学入試センター試験成績の各大学への提供を開始

2月 7日(木)〔予定〕

大学入試センター試験の平均点等の最終発表

2月25日(月) から

国 公 立 大 学 前 期 日 程 の 試 験 を 実 施

3月 8日(金) 以降

公立大学中期日程（旧C日程）の試験を実施

3月12日(火) 以降

国 公 立 大 学 後 期 日 程 の 試 験 を 実 施

5月 1日(水) 以降

大学入試センター試験の成績開示希望者への成績開示を開始

注1) 国公立大学の実施日程は、上記日程と一部異なる場合があります。

注2) 私立大学は、出願期日、試験日とも各大学が設定しています。

平成14年度大学入試センター試験利用大学-479大学-

国立大学95大学(全大学)

北海道大学	埼玉大学	富山医科大学	京都工芸繊維大学	香川医科大学
北海道教育大学	千葉大学	金沢大学	大阪大学	愛媛大学
室蘭工業大学	東京大学	福井大学	大阪外国語大学	高知大学
小樽商科大学	東京医科歯科大学	福井医科大学	大阪教育大学	高知医科大学
帯広畜産大学	東京外国語大学	山梨大学	兵庫教育大学	福岡教育大学
旭川医科大学	東京学芸大学	山梨医科大学	神戸大学	九州大学
北見工業大学	東京農工大学	信州大学	神戸商船大学	九州芸術工科大学
弘前大学	東京芸術大学	岐阜大学	奈良教育大学	九州工業大学
岩手大学	東京工業大学	静岡大学	奈良女子大学	佐賀大学
東北大学	東京商船大学	浜松医科大学	和歌山大学	佐賀医科大学
宮城教育大学	東京水産大学	名古屋大学	鳥取大学	長崎大学
秋田大学	お茶の水女子大学	愛知教育大学	島根大学	熊本大学
山形大学	電気通信大学	名古屋工業大学	島根医科大学	大分大学
福島大学	一橋大学	豊橋技術科学大学	岡山大学	大分医科大学
茨城大学	横浜国立大学	三重大学	広島大学	宮崎大学
図書館情報大学	新潟大学	滋賀大学	山口大学	宮崎医科大学
筑波大学	長岡技術科学大学	滋賀医科大学	徳島大学	鹿児島大学
宇都宮大学	上越教育大学	京都大学	鳴門教育大学	鹿児島大学
群馬大学	富山大学	京都教育大学	香川大学	琉球大学

公立大学73大学(全大学) ※は平成14年度新規利用大学

釧路公立大学	埼玉県立大学	愛知県立大学	神戸商科大学	高知女子大学
公立はこだて未来大学	東京都立大学	愛知県立看護大学	姫路工業大学	北九州市立大学
札幌医科大学	東京都立科学技術大学	愛知県立芸術大学	兵庫県立看護大学	九州歯科大学
青森県立保健大学	東京都立保健科学大学	名古屋市立大学	奈良県立医科大学	福岡県立大学
青森公立大学	横浜市立大学	三重県立看護大学	奈良県立大学	福岡女子大学
岩手県立大学	富山県立大学	滋賀県立大学	和歌山県立医科大学	県立長崎シーボルト大学
秋田県立大学	石川県立看護大学	京都市立芸術大学	島根県立大学	長崎県立大学
宮城大学	金沢美術工芸大学	京都府立大学	岡山県立大学	熊本県立大学
山形県立保健医療大学	福井県立大学	京都府立医科大学	※尾道大学	大分県立看護科学大学
会津大学	都留文科大学	大阪女子大学	県立広島女子大学	宮崎県立看護大学
福島県立医科大学	山梨県立看護大学	大阪市立大学	広島県立大学	宮崎公立大学
茨城県立医療大学	長野県看護大学	大阪府立大学	広島県立保健福祉大学	沖縄県立看護大学
群馬県立女子大学	岐阜県立看護大学	大阪府立看護大学	広島市立大学	沖縄県立芸術大学
高崎経済大学	岐阜薬科大学	神戸市外国語大学	下関市立大学	
前橋工科大学	静岡県立大学	神戸市看護大学	山口県立大学	

私立大学311大学762学部 ※は平成14年度新規利用大学 ☆は平成14年度新規利用学部がある大学

札幌大学	※日本赤十字北海道看護大学	☆北海道情報大学	八戸大学	いわき明星大学
札幌学院大学	北星学園大学	北海道薬科大学	八戸工業大学	郡山女子大学
札幌国際大学	☆北海学園大学	酪農学園大学	※富士大学	流通経済大学
千歳科学技術大学	北海道浅井学園大学	※椎内北星学園大学	盛岡大学	足利工業大学
天使大学	北海道医療大学	青森大学	石巻専修大学	※国際医療福祉大学
苫小牧駒澤大学	北海道工業大学	※青森中央学院大学	東北工業大学	※獨協医科大学

※高崎健康福祉大学	昭和薬科大学	横浜商科大学	※人間環境大学	※甲南女子大学
※高崎商科大学	杉野女子大学	敬和学園大学	名城大学	神戸海星女子学院大学
白鷗大学	成蹊大学	新潟経営大学	皇學館大学	神戸学院大学
関東学園大学	※成城大学	新潟工科大学	※鈴鹿医療科学大学	神戸松蔭女子学院大学
共愛学園前橋国際大学	専修大学	新潟国際情報大学	鈴鹿国際大学	※神戸女学院大学
上武大学	大正大学	新潟産業大学	松阪大学	神戸女子大学
東京福祉大学	☆大東文化大学	高岡法科大学	☆四日市大学	神戸親和女子大学
跡見学園女子大学	高千穂大学	富山国際大学	※平安女学院大学	神戸薬科大学
※共栄大学	拓殖大学	金沢学院大学	京都学園大学	姫路獨協大学
埼玉工業大学	多摩大学	金沢経済大学	京都光華女子大学	☆兵庫大学
十文字学園女子大学	多摩美術大学	金沢工業大学	京都産業大学	武庫川女子大学
☆城西大学	☆中央大学	福井工業大学	京都女子大学	☆流通科学大学
※尚美学園大学	津田塾大学	帝京科学大学	※京都創成大学	帝塚山大学
女子栄養大学	☆帝京大学	山梨学院大学	京都橘女子大学	奈良大学
駿河台大学	東京家政大学	松本歯科大学	※京都文教大学	☆奈良産業大学
西武文理大学	東京経済大学	朝日大学	※京都薬科大学	※鳥取環境大学
東京国際大学	東京工科大学	岐阜経済大学	種智院大学	※岡山商科大学
※獨協大学	☆東京工芸大学	岐阜聖徳学園大学	☆同志社大学	岡山理科大学
文教大学	※東京純心女子大学	岐阜女子大学	同志社女子大学	吉備国際大学
☆文京女子大学	東京女子大学	東海女子大学	佛教大学	倉敷芸術科学大学
江戸川大学	☆東京電機大学	静岡産業大学	立命館大学	くらしき作陽大学
※川村学園女子大学	東京薬科大学	静岡文化芸術大学	龍谷大学	山陽学園大学
神田外語大学	東京理科大学	静岡理工科大学	大阪学院大学	※就実女子大学
秀明大学	東邦大学	聖隷クリストファー看護大学	大阪経済大学	ノートルダム清心女子大学
淑徳大学	東洋大学	常葉学園大学	※大阪芸術大学	美作女子大学
城西国際大学	二松学舎大学	浜松大学	大阪工業大学	呉大学
聖徳大学	☆日本大学	※富士常葉大学	大阪国際大学	広島経済大学
清和大学	日本歯科大学	愛知大学	☆大阪産業大学	広島工業大学
千葉工業大学	日本社会事業大学	愛知学院大学	☆大阪樟蔭女子大学	広島国際学院大学
※東京情報大学	☆法政大学	愛知学泉大学	※大阪商業大学	広島修道大学
東京成徳大学	星薬科大学	愛知工業大学	大阪電気通信大学	※広島女学院大学
東洋学園大学	武蔵大学	愛知工業大学	※大阪明浄大学	広島文教女子大学
麗澤大学	武蔵工業大学	愛知淑徳大学	大阪薬科大学	安田女子大学
亜細亜大学	武蔵野女子大学	愛知みずほ大学	大谷女子大学	☆東亜大学
※上野学園大学	明治大学	金城学院大学	追手門学院大学	梅光学院大学
大妻女子大学	※明治学院大学	倡山女学園大学	関西外国語大学	萩国際大学
桜美林大学	明治薬科大学	大同工業大学	※関西福祉科学大学	山口東京理科大学
※嘉悦大学	明星大学	中京大学	近畿大学	四国大学
北里大学	立教大学	中京女子大学	四天王寺国際仏教大学	徳島文理大学
共立女子大学	立正大学	☆中部大学	摂南大学	高松大学
共立薬科大学	※和光大学	東海学園大学	相愛大学	松山大学
杏林大学	早稲田大学	同朋大学	帝塚山学院大学	松山東雲女子大学
慶應義塾大学	麻布大学	豊田工業大学	梅花女子大学	高知工科大学
恵泉女学園大学	神奈川大学	※豊橋創造大学	阪南大学	九州共立大学
☆工学院大学	神奈川工科大学	名古屋外国語大学	プール学院大学	九州国際大学
☆國學院大学	関東学院大学	名古屋経済大学	桃山学院大学	九州産業大学
☆国土館大学	相模女子大学	※名古屋産業大学	英知大学	九州情報大学
※駒澤大学	産能大学	名古屋商科大学	大手前大学	九州女子大学
※実践女子大学	湘南工科大学	名古屋女子大学	☆関西国際大学	久留米大学
芝浦工業大学	※昭和音楽大学	※名古屋文理大学	☆関西学院大学	久留米工業大学
昭和大学	桐蔭横浜大学	南山大学	※甲子園大学	産業医科大学
昭和女子大学	東洋英和女学院大学	日本福祉大学	甲南大学	西日本工業大学

※福岡大学	長崎純心大学	※日本文理大学	宮崎国際大学	名城大学
☆福岡工業大学	長崎総合科学大学	別府大学	宮崎産業経営大学	
福岡国際大学	九州東海大学	立命館アジア太平洋大学	鹿児島国際大学	
福岡歯科大学	熊本学園大学	九州保健福祉大学	鹿児島純心女子大学	
活水女子大学	崇城大学	南九州大学	沖縄国際大学	

注1) 大学入試センター試験を利用する大学によっては、学部・学科等により利用しない場合もあるので、各大学の募集要項などで確認してください。

注2) 私立大学の利用学部については、ホームページ (<http://www.dnc.ac.jp/>) を御覧ください。

大学入試センター試験利用大学数の推移

年度	国立大学	公立大学	私立大学 (利用定員)	計
2	95大学	37大学	16大学 19学部 (1,687名)	148大学
3	95大学	39大学	21大学 24学部 (2,124名)	155大学
4	95大学	39大学	32大学 46学部 (3,313名)	166大学
5	95大学	41大学	56大学 85学部 (4,714名)	192大学
6	95大学	46大学	73大学 125学部 (6,002名)	214大学
7	95大学	48大学	104大学 189学部 (8,322名)	247大学
8	95大学	52大学	122大学 232学部 (10,421名)	269大学

年度	国立大学	公立大学	私立大学 (利用定員)	計
9	95大学	53大学	152大学 321学部 (13,596名)	300大学
10	95大学	57大学	180大学 395学部 (16,391名)	332大学
11	95大学	61大学	217大学 482学部 (19,931名)	373大学
12	95大学	66大学	242大学 566学部 (22,391名)	403大学
13	95大学	72大学	266大学 666学部 (24,836名)	433大学
14	95大学	73大学	311大学 762学部 (27,550名)	479大学

注) 平成14年度の私立大学の利用学部数・利用定員は、平成13年3月末現在のものです。

大学情報の提供－進路選択に役立てる－

《大学入試センターは、偏差値情報や大学に関する一面的な情報に依存せずに、
大学進学志望者が自らの志望・適性に応じて大学を自主的に選択できるよう、
次のような大学情報提供事業を行っています。》

1. ハートシステムによる大学進学案内

大学入試センターは、平成13年4月からインターネットを利用したハートシステムにより、大学情報提供を開始しました。ハートシステムとは、『Higher Education **ART**iculation Support System』から命名したものであり、大学進学志望者自身が本当に入りたい大学を選ぶための情報を提供するシステムです。このシステムでは、全国すべての大学の協力を得て、大学進学志望者や高等学校等に個々の大学の教育研究に関する情報はもとより、所在地や専門分野、取得できる免許・資格などの希望条件から、全国の大学を対象に、志望する学部や学科等を探ることができる情報、そして各大学のキャンパス公開・大学説明会などの最新情報を提供しています。

なお、4月以降に、さらに提供する内容は、次のとおりです。

- 4月以降 各大学の最新の大学案内に関する情報
- 7月以降 各大学の平成14年度入学者選抜方法に関する情報
- 8月頃 ガイドブック情報 (各国公立大学の特色・沿革・概要情報)
- 8月頃 大学進学情報一覧 (全大学の入学広報関係資料等一覧)

ハートシステムの大学進学案内画面

ハートシステムのホームページアドレスは、<http://www.heart.dnc.ac.jp>です。

■ハートシステムに関する問合せ先

大学入試センター管理部情報課 電話03-3468-3311 (代表)

2. ガイドブックの作成

大学進学志望者が志望する大学・学部を選定したり、高等学校での進路指導に役立つように、各国公立大学の特色・沿革・概要、大学入試センター試験利用大学の入学者選抜方法の一覧を、ガイドブックとして刊行しています。

3. 大学ガイダンスセミナーの開催

大学の教育研究内容やこれからの展望等について、講演及び意見交換会等を行い、大学関係者と高等学校関係者との直接のコミュニケーションを図ることを目的とした「大学ガイダンスセミナー」を開催しています。

平成13年度大学ガイダンスセミナー開催日程 (予定)

北海道	9月中旬	札幌市	静岡県	未定
北東北地区	9月上旬	青森市	岡山県	8月7日(火) 岡山市
南東北地区	9月14日(金)	仙台市	山口県	9月下旬 萩市
千葉県	10月上旬	千葉市	長崎県	10月26日(金) 長崎市
新潟県	8月3日(金)	新潟市	鹿児島県	10月10日(水) 鹿児島市

お答えします、 大学入試センター試験 Q&A

Q 大学入試センター試験のほかに、利用大学が別に学力試験等を課すのは、受験者にとって負担ではありませんか？

A 大学入試センター試験は、受験者の基礎的な学習の達成度を判定し、各大学では調査書を活用したり学力試験・実技・面接・小論文などを実施して、両方を適切に組み合わせ、受験者の能力や適性を多面的に判定しようとするものです。したがって、負担というよりも受験者の立場を十分に考慮し、ひとりひとりの個性を重視した丁寧な入試をめざすものとして実施しています。

Q 大学入試センター試験の出願に当たって、特に注意すべき点はどんなことですか？

A 大学入試センター試験は、すべての国公立大学と半数以上の私立大学が利用する試験です。特に、出題教科・科目数が6教科32科目と多く、利用する大学での教科・科目の指定も複雑・多岐にわたっています。したがって、自分が志望する大学・学部等が、大学入試センター試験を利用するか否か、また利用する場合にはどのように利用するのか、募集要項等で十分確認し、併願校との関係も考えながら、受験教科・科目を決める必要があります。

なお、出願期間が試験実施日よりかなり早い時期（今年度は平成13年10月9日(火)から19日(金)まで）ですので、期間内に確実に出願手続を済ませるようにしてください。また、身体障害者等の志願者は、受験に当たって特別の措置が受けられますので、出願の際に、特別措置の内容等を「受験案内（別冊）」により、十分確認して所要の手続をとる必要があります。

Q 大学入試センター試験を利用している大学に、何校まで出願できますか？

●国公立大学を受験する場合

A 出願は、前期日程で試験を実施する大学・学部から一つ、後期日程で試験を実施する大学・学部から一つ、公立大学の中期日程（旧C日程）の試験を実施する大学・学部から一つの、合計三つの大学・学部に出願・受験することが可能です。

●大学入試センター試験を利用する私立大学を受験する場合

大学の数に制限はありませんが、出願期日、試験日とも各大学・学部が設定していますので、各大学の募集要項等で確かめて出願・受験してください。

Q 大学入試センター試験の得点調整は、どのような場合に行われるのでしょうか？

A 大学入試センターとしては、問題作成の段階で著しい平均点差が生じないようできるかぎりの努力をしていますが、それでも大学入試センター試験の本試験において次の各科目間で、原則として、20点以上の平均点差が生じ、これが試験問題の難易差に基づくものと認められる場合には、得点調整を行います。

- ア 地理歴史の「世界史B」、「日本史B」、「地理B」の間
- イ 公民の「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」の間
- ウ 理科の「物理I B」、「化学I B」、「生物I B」、「地学I B」の間

Q 各受験者の成績はどのように扱われるのですか？

A 答案は、大学入試センターで一括して採点します。その成績は、受験者が出願した大学からの請求に基づき、その大学に対して提供します。平成14年度大学入学選抜から、大学の判断により、大学入試センター試験の前年度成績を当該年度の入学選抜に利用できるようになり、これについても同様に提供します。なお、正解と配点については、試験終了直後に報道機関を通じて発表します。

また、大学入試センターでは、平成14年度大学入試センター試験から、出願時に希望した者に限り、翌年の5月1日以降に大学入試センター試験の成績を通知することとしています。なお、大学入試センター試験利用大学でも、当該大学の判断により受験者本人に、大学入試センター試験の成績を翌年の4月16日以降、開示して差し支えないこととしています。

Q 大学入試センター試験はマークシートで行われていますが、この点についての改善は行われないのでしょうか？

A 大学入試センターでは、大量の受験者の答案を迅速かつ公平に処理するために、マークシート方式をとっています。現行のマークシート方式は、これまでの研究や経験の積み上げの中から、単に瑣末な暗記知識を問うのではなく、論理的な思考力や判断力を評価できるよう、試験問題の形式や内容について工夫改善を図ってきたものです。大学入試センターとしては、今後とも、これらの思考力等をよりよく評価できるよう、更に改善に努めることとしています。

Q 大学入試センターのホームページでは、どのような情報を提供しているのですか？

A 大学入試センターのホームページでは、沿革、組織、大学情報提供事業といった大学入試センターの概要や大学入試センター試験の概要を掲載しています。

また、適宜、最新情報として、出題教科・科目、受験案内、志願者数、試験問題の正解、平均点等の情報を提供しています。

なお、大学入試センターのホームページアドレスは、<http://www.dnc.ac.jp/> です。

Q 大学入試センター試験の受験案内はどこで入手できますか？ また、不明な点はどこに問い合わせたらよいのでしょうか？

- 平成14年度受験案内の配付
 - ・配付時期 平成13年9月3日(月) から
 - ・配付場所 大学入試センター試験利用大学
- 身体障害者等の志願者が受験特別措置を希望する場合に必要な平成14年度受験案内（別冊）は、大学入試センターに直接請求してください。
 - ・配付時期 平成13年9月3日(月) から
 - ・請求方法 官製はがき（表面に「受験案内（別冊）請求」と朱書）又は電話

■大学入試センター試験志願者問合せ先

大学入試センター事業第一課 電話 03-3465-8600

月曜～金曜 9時30分～12時、13時～17時（祝日及び創立記念日〈5月2日〉を除く）
※電話による問合せは、原則として志願者本人が行ってください。

大学入試センターは、文部科学省所管の独立行政法人です。教材の訪問販売等は、一切行っておりません。



独立行政法人大学入試センター
〒153-8501 東京都目黒区駒場2丁目19番23号
電話 03-3468-3311(代表)
ホームページアドレス <http://www.dnc.ac.jp/>

2001年(平成13年)5月発行